



平成28年度 第2回 総合教育会議

会 議 録

八幡市教育委員会

開催日時	平成29年2月10日（金曜日） 午後 3時00分～午後 3時52分	
場所	文化センター2階 会議室1	
委員	市長 堀口 文昭 教育委員長 松下 順英 職務代理者 布目 有希子	教育委員 橋本 陽生 教育委員 佐野 恵理子 教育長 谷口 正弘
事務局	教育部長 大東 康之 教育部次長 北 和人 教育部次長 西川 茂男	教育総務課係長 林 左和子 教育総務課 大崎 茂夫

1. 開 会

- ・市長あいさつ

2. 議 題

- (1) 小中学校における学力向上について

3. 閉 会



	内 容
[西川次長]	<p>定刻となりましたので、平成28年度第2回八幡市総合教育会議を開催いたします。それでは、堀口市長からご挨拶をいただきたいと思ひます。</p>
[市長]	<p>1. 開 会 ・市長のあいさつ</p>
[西川次長]	<p>皆さん、こんにちは。 早いもので、前回、開催させていただいてから6カ月が経ちました。本日も、お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。 総合教育会議は、首長と教育委員会が重点的に講ずべき施策等について協議調整を行う場でありまして、両者が教育政策の方向性を共有し、一致して教育行政を進めていくとなっております。今日が、旧教育長制度で行う最後の総合教育会議です。前回の総合教育会議では、委員の皆様から貴重なご意見を賜りまして、誠にありがとうございました。 本日は、前回の総合教育会議において、意見をいただきました小中学校における学力向上について、協議してまいりたいと考えております。お手元にお配りしています資料は、私が1990年代に教育委員会に居りました時に書きました小論でございます。その後、手直しをしたものです。参考にして頂けたら幸いです。 今後とも、この総合教育会議におきまして、教育現場の課題や問題点について忌憚のないご意見を頂戴してまいりたいと思ひます。 本日も、どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
[市長]	<p>ありがとうございます。 それでは、これより議題に入りますので、会議の進行役は、市長にお願ひいたします。市長、よろしくお願ひいたします。</p>
[西川次長]	<p>2. 議 題</p>
[市長]	<p>(1) 小中学校における学力向上について それでは、平成28年度第2回総合教育会議を開催いたします。</p>
[西川次長]	<p>本日は、教育長・教育委員長・教育委員全員にお集まりいただき、ありがとうございます。 会議次第に従いまして、議題に入らせていただきます。 議題は、「小中学校における学力向上について」協議したいと思ひます。 人間は、自分の経験でものをいう傾向があります。教育経済学というのが出てきています。それによりますと、アメリカでは2000年以降「私の経験では、……云々」の政治家発言は通らなくなり、証拠（エビデンス（evidence））に基いて発言しないと政治家も許されなくなっています。中室牧子氏著の学力の経済学では、「教育経済学は、教育政策の費用対効果を統計的に分析・評価するものです。ある政策に効果があるというエビデンスがあれば、そこから広げていくことができます。日本だと学力テストをやること自体が序列をつけると言って反対されることもありますけど、エビデンスベースを徹底しないといけない。」と言っています。あまり私の思いをお話するのも如何なものかと考えるところです。 また、元外務省の佐藤優氏がロシアへ留学された時の話の中で、1冊の本を全て丸々暗記させられたと仰っていました。これは、駄目なようで実は良いのだとの事です。少なくとも彼が言っているのですから、良いのだと思ひます。前回もお話しましたが、小学校4年生ぐらいで日本の小論等を丸暗記する事が、ある意味では、大切だと思ひています。日本の国語教育は、どちらかと言えば文学教育傾向にあると思ひます。 経験から話しますと、私が大学に行くまで内容を読む事はよく言われましたが、形式を読むことを大学では要求されました。論理的な文章を展開するという意味では、国語教育の中で正しい位置付けが必要だと思ひます。今は分かりませんが、私として</p>



は、余りされていなかったのではないかと考えています。

もう一点としては、数式における徹底反復練習は、重要だと思います。学力の向上と言いますが、一般論では、まとめる能力のある子や記憶力の良い子が良い成績をとるようになっていきますけれども、実は、分からないところが分からない子をどの様にするかという時に、その子の感性の一部分を切り捨てているところがありますが、それはそれで非常に重要で必要だと思います。

しかし、基本は体験重視だと思います。ヴィゴツキー (Vygotsky, L. S.) 氏の「発達の最近接領域」にしても子どもは無限ではなく有限であるということになるわけですが、最近ではガードナー (Howard Gardner) 氏のMI理論等から子ども達の教育は体験重視で行うべきだと思います。

以上感想ですが、この間、教育委員会の方で各種教育データの分析等を踏まえて、ご意見くだされば良いと思っています。

橋本委員如何でしょうか。

[橋本委員]

先ずは、教育委員会の施策について、ご理解していただき、また、人事的な面で多大なご支援をいただき、委員としてお礼を申し上げます。

特に学校訪問させていただいて、前回も申し上げましたが、非常に落ち着いてまいりました。現場の方々、教育委員会の方々のご努力に敬意を表しています。

そのような中で、平成27・28年度予算をみて、学習支援員の配置を含めて多くの予算が投じられて手厚い教育体制がとられ、感心しています。これを見ると量的には、満たされていると思います。そうすると次は、質的な所に手を付けて行かないと学力の向上・改善は望めないと考えています。学力とは何かという難しい部分もありますが、全国で1位の成績を目指す学力調査についての数字を上げる事もさることながら、教育委員として思うのは、子ども達の今居る立ち位置からどれだけ変化をさせる事ができるか、この変化の大きさが重要なポイントではないかと思っています。

学力の定義は様々だと思いますが、多様な学習の学びの機会がある、子どものニーズに合った学びの場が用意されている事も、大きなポイントだと思います。

この様な事から考えますと問題点は、子どもの生活実態の厳しさを強く感じます。色々なアンケート調査から導かれた結果も、家庭における学習時間の問題です。これを一歩進めるには、家庭環境等との関係もあると思いますが、家庭に任せても現状では期待できない。また、努力して家庭に求める事を続けるにしても限界があるので、教えるの教育から学びの教育に変換していくために、量的な事から質的なものへと返還するには、土曜日の午前中に学習の機会を与えるのも良いと思います。自ら学ぼうとする姿勢が出てこなければ、幾ら教育の機会・場等を工夫し、カリキュラム・マネジメントを働かせても機能せず、活かすことができないと考えています。

まず初めは、自学・自習する習慣付けの所までは、かなり子ども一人一人に迫っていかなければならないと考えます。外国語教育も含めた早期学習の習慣付け、それのできる事ならば、幼稚園から小学校低学年の早い段階で定着させないと、その後の指導やカリキュラム・マネジメントが機能しないと思います。この辺りもキーワードの一つだと考えます。

学びの喜びや自立への姿勢にしても、体験的な学びの基本のところ、身体知として身に付けさせることが学力問題のポイントだと思います。繰り返しになりますが、土曜学習においても教えるのじゃなく、自ら課題を与えて自分から学ぼうとする指導方法が必要だと思います。以上です。

[市長]

ありがとうございます。布目委員どうぞ。

[布目委員]

本市は、近隣の市町村に比べ独自の施策等がありますが、保護者として懸念があるのが、各中学校の外国人講師が行う授業が気になり娘に尋ねたところ、外国人講師の授業は、英語の授業にはあまり関係ないと聞いています。また、知人のお子さんが中



[市長]
[松下委員長]

学1年時に、外国人講師に英語で質問されたが聞き取れなく、返答できない事が英語教科に対する躓きになったとも聞きました。外国人講師枠の予算を取り実施しているのですから、外国人講師の英語の授業をもう少し工夫していただきたいと思います。

ありがとうございます。松下委員長如何ですか。

最近、各校とも落ち着いており、満足度調査でも良い数値であり、子ども達は学校である程度好きな学習ができ、精神的にも安定してきています。しかし、市内中学校の不登校の生徒数が少なくないので、どうにかしたいものだと思っています。月に一度の学校訪問だけで余り詳しく見れないですが、教員の勤務時間が話題になっています。現場によって色々と事情があるので一概に言えないですが、今後は教員の勤務状態の改善も必要ではないかと考えています。

[市長]
[佐野委員]

ありがとうございます。佐野委員は、如何ですか。

昨年から学校訪問に参加する事になり、八幡市の学校教育の現場を初めて違う目線で見ると経験させていただき、私たちが通っていた時代や私の子ども達が通った時代と比べると、学校や教員の雰囲気も変わってると思います。私自身が以前からスポーツ推進関係に携わってきたので、運動する子ども達の体型や運動クラブに入っている子ども達の割合を尋ねたりしますが、減少してるとのことです。今回、くすのき小学校が「やましろ未来っ子駅伝」で大会記録で優勝したことに感動しました。八幡市スポーツ賞の表彰においても、ここ2～3年で全国レベルの選手が多く輩出されていることに喜んでます。スポーツを軸にし、体力を付けて学力が向上する方向に向かえば良いと思っています。私自身が委員になって日が浅いため、現時点で目標等が定まらないため、来年度以降に目標・方針が決まれば市長に相談・報告できると思います。

[市長]
[教育長]

どうもありがとうございます。教育長は、如何ですか。

事務局を預かっている身としては、できれば避けてほしいテーマなんです。私も11年間八幡市の子ども達の学力をどの様に高めるかということに携わってきたことが背景にあるので、避けてほしいテーマと申し上げたのです。

小中一貫教育については、一時期は併設型を目指しましたが、色々な事情により現在では、連携型を目指しています。小中一貫教育の一番大きな狙いは、小学校の先生方に中学校を卒業する時の子ども達の進路についての意識を持ってもらいたい事が一点、もう一点は、9年間を通したカリキュラムで効果的に子ども達を育てる方法についてですが、この間に国語研究委員会や算数研究委員会を活動しながら、言葉の系列のカリキュラムを9年間作成したり、計算問題で小学校で分数と少数の考え方について算数研究委員会に提言を受けながら、小中一貫に取り組んでいるわけです。小中一貫教育は、まだまだ十分ではなく効果があるとは思っていませんし、八幡市の子ども達に一番欠けているのは、家庭の状況も含めた学習時間の確保だと考えます。如何に学校で学習時間を確保する事を考慮し、3学期制の廃止を行い、現在も前期後期の通年制を採用しています。通年制が子ども達の学習時間の確保が学力にどう結びついていくかは、現実的には難しい部分はありますが、発想的には子ども達の学習時間の確保のために通年制を行い、夏休みの短縮に伴い、エアコンを導入しました。

学校の教師の方々に、学力向上についての構想を練っていただきたい。例年同じような事を繰り返すのじゃなくて、八幡市では、eスクール構想と呼んでいますが、eスクールのeは、効果のある学校ということで取り組んできました。年度当初には、校長・教頭から学力向上の構想の報告を受けアドバイスしたり、過去には財政支援したこともあります。年度末には、校長・教頭から結果の報告を受け、ヒアリングを行うことの繰り返しがeスクール構想の考え方です。

学校マニフェストとして、学校としての目標を立ててもらおう。例えば八幡市でCITに歳出したい場合、どうするのかを学校で目標を立ててもらい、それについて取り組んでもらいます。保護者・市民に公表して行っています。このような取り組みを行っ



ています。

放課後学習クラブ等も含め色々実践していますが、先程、橋本委員が発言された通り、量から質へ洗いなおす必要があると思っています。

校長先生や園長先生によく話すのは、忍耐強さ・我慢強さ等は、持って生まれたものであるイメージが強かったですが、そうじゃなく環境を整える事によって育てられるというのが、大きな変更点だと思います。幼小中の連携の中で就学前をどうするのか、小学校にどう繋ぐのか、非認知能力は5歳までが一番効果的だと言われていますが、小学校で付けられない訳じゃないです。先程、くすのき小学校の駅伝の話がありましたが、学力を付けるというより非認知能力の向上が大きいと思っています。それらに体験も含めたスキルを就学前から小学校4年生ぐらいまでに付ける取組みを組織していくかを先生方と一緒に考えることが、課題だと思います。

最近、家庭の貧困の問題がよく言われておりますが、貧困が直接の問題じゃなく、経済的に困難な家庭のなかで、非認知能力を育てる部分に弱さがあるのではないかと思います。その部分を教育委員会として、手立ての方法を考えなければならないと思っています。もちろん貧困部分に焦点を当てますが、本当は、経済的に困難な家庭のなかの部分であろうと、意見を我々教育委員会としては持ちながら、就学前・小学校の教育をもう一度考えなければいけないと思います。

今まで行なってきた事の量から質への問題と、これから実施する事の効果と、具体的な取組み方法が、学力向上に繋がるのではないかと思います。

以上です。

[市長]

私も職員時代に色々経験してきましたが、その時の私の判断基準は、人間の生命は神ではないので有限です。有限ですから、自ら真理と思うところに従えば良いと思います。公務員は、犯罪を起こさない限り解雇にはなりません。意見が違ってても解雇にはなりません。しかし、全体を見渡すと長いものには巻かれるの職員が多いと思います。それはそれでいいのですが、教師の方々は、この辺はどうなのか、また独立しているのかどうか考えさせられます。

日本人論を考えると、今までは、ヨーロッパの概念の影響を受けていると思います。熟読はしていませんが、和辻哲郎の人間主義が日本人を語った本だと思います。

委員の方々から、身体知、英語教育のヒアリング等の問題、不登校の児童・生徒の傾向と対策、スポーツにおける達成感、現場での事実上の教育行政について等々の意見がありましたが、非常に難しいものがあると思います

私の学生時代のゼミの教授に聞いた話ですが、昔の学生は入門を説明だけで良かったが、今の学生は入門の門まで連れてきてから入門を説明しなければならない。また、私自身が中学生の子どもを持って驚いたのは、英語の筆記体が読めない事には驚かされました。詰め込み教育は良くないと思いますが、必要な部分もあるのではないのでしょうか。

次年度に向けて、教育長や橋本委員が仰っている量と質の問題も検討課題だと思いました。しばらくの期間は、プラグマティック的な対応が必要だと思っています。委員の方がそれぞれ気がつきましたら、よろしくお願いします。

本日は、各委員からそれぞれのご意見を頂き、ありがとうございます。

これで閉会とします。

どうもありがとうございました。